

信篤小だより

Shintoku elementary school News



令和3年10月18日(月)

No. 12 市川市立信篤小学校

校長 池田 淳一

<http://ichikawa-school.ed.jp/shintoku-sho/>

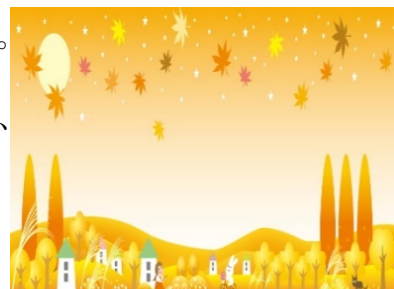
学校教育目標

やさしく かしく たくましく ～自分らしさが輝く信篤っ子の育成～

児童数 743名

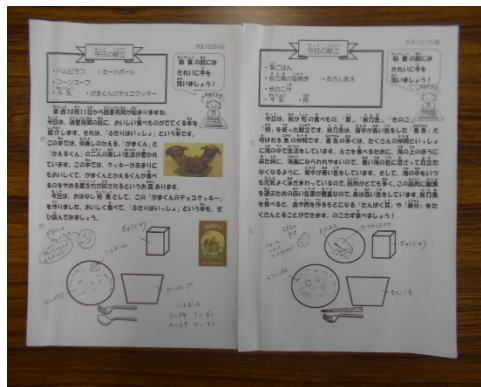
(令和3年10月1日現在)

先週15日(金)で、令和3年度前期の教育活動を終わりました。年度当初からコロナ禍での始まりでしたが、4月には始業式、入学式、学級懇談会や授業参観も行うことができました。5月には、当日明け方まで雨模様でしたが運動会も1時間遅れで実施することができました。6月以降は蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言発令などにより、水泳学習、授業参観、学級懇談会も中止となりましたが、7月には5年生の自然教室を実施し、子供たちは宿泊体験を通して友達との絆を深める貴重な学びを経験することができました。7月からの夏休みは例年通りの42日間と長い期間となり、1年生だけでなく2年生にとっても初めての小学校の夏休みを経験し、6年生にとっても小学校生活最後の夏休みとしてたくさんの思い出をつくることができました。9月からは緊急事態宣言発令期間中でしたが、専門家を招いての学習や学区内探検など、学年での活動を実施することができました。改めて、保護者の皆様からの御理解と御協力のおかげで滞りなく活動できましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。後期も引き続いて「自分らしさが輝く信篤っ子の育成」に向けてお子様の安全と安心を第一に考え、ウイルス感染拡大防止の徹底を図りながら教育活動を進めてまいります。



食欲の秋、食育の秋

爽やかな風が吹き、空の色も鮮やかな青色になりました。秋と言えば「〇〇の秋」と言われる言葉がたくさんありますが、秋は、食べ物の多くが収穫される季節でもあります。今でこそ、一年中さまざまな食品(農産物、海産物など)が食べられるようになりましたが、今の季節にしか食べられない旬の食品がたくさんあります。昔から「旬のものを食べると長生きする」との言い伝えがありますが、動物も同じで、食べ物が手に入りにくくなる冬を前にたくさん栄養をとって体の中にエネルギーを蓄えようとする行動をします。これは生物の本能として当然のことであり、私達人間の食欲にも関係していると言われています。



学校給食においては、今の時期に旬を迎える食材がたくさん使われています。本校の給食献立は、国や市川市が決めたルールに基づき学校栄養職員が中心となって作成しています。「子供たちに食べることの楽しさを味わってほしい。また、食べることの大切さを知ってほしい。」との願いのもと、「年中行事を意識した献立」「読書教育との連携(おはなし給食)」「千産千消(地元食材の活用)」「献立にまつわるメッセージ」など、工夫しながら献立を作成するとともに、衛生管理の徹底については調理業者と連携しながら毎日の調理業務を行っています。また、学校給食のねらいには「食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることへの理解を深める」「食にかかわる人々の様々

【献立にまつわるメッセージ】 理業務を行っています。また、学校給食のねらいには「食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることへの理解を深める」「食にかかわる人々の様々

な活動に支えられていることへの理解を深める」などもあります。食事をする際に「いただきます」と挨拶をしてから食事をします。「いただきます」の意味として諸説ありますが、その一つとして「私達が毎日食べるものには命があるということ。私達は食べ物を食べることでその命をいただき、自分の命にさせていただく」という説があります。また、「毎日食べている食べ物は、食材の栽培、飼育、捕獲から調理に至るまで、たくさんの人々の手間がかかっている」ことから「感謝の意をあらわす」という説もあります。食事をする際の「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶の励行は、日本の食文化のひとつでもあります。学校給食を通じて、子供たち一人一人が食べることへの「楽しさや大切さ」を知り、「命や相手への感謝の気持ち」をもつことができるよう、引き続き給食指導を進めていきます。御家庭でも家族との団らんの中で「食の大切さ」について話し合ってみてはいかがでしょうか。

「おめでとうございます！」（令和3年度の表彰③）

先週10月15日（金）、オンラインでの「前期終了朝会」の中で、優秀な成績をおさめた児童の表彰を行いましたのでお知らせします。今後も随時、お知らせしていきます。

市川市ミニバスケットボール連盟主催

夏季ミニバスケットボール大会女子の部 準優勝 信篤ミニバスケットボールクラブ

【目指す児童像】よく考え、ともに学び合う子の育成に向けて

～校内研究活動の推進 生活科と社会科を中心に～

本校では、昨年度から学校教育目標「やさしく かしこく たくましく」に基づき、学力向上目標「かしこく（よく考え、ともに学び合う子）」の具現化に向けて、生活科と社会科の学習を柱とした教育研究活動を行っています。本研究活動は本校の特色のある取組のひとつでもあります。

令和2年度からの新しい小学校教育では「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す」ことが基本的な考え方として示されています。子供たちが大人になって社会で活躍する時代は、変化も激しく、世界の国々とのつながりも今まで以上に強くなるなど、将来への見通しを持つことが難しい時代であると言われています。「子供たちが社会に出たとき、様々な課題にぶつかっても自分で考え、たくましく生きていってほしい。そのために必要な『基礎となる力』を身に付けさせたい。」との全職員の願いから本研究がスタートしています。

具体的には、研究主題「変わりゆく未来を切り拓く力をはぐくむ生活科・社会科学習～自ら課題を持ち、協働して思考を深める『深い学び』の実現～」を掲げ、全ての学級担任が一単元を指導するための授業計画書（学習指導案）を作成し、年間1～数回の研究授業（他の職員が参観）を行い、授業後の協議会ではディスカッションや講師による指導などを通じて、目標実現に向けた研究活動を進めていきます。また、来年1月25日（火）には、市内小中学校向けに授業の公开发表（学力向上推進校授業研究会）を行い、広く他校職員からの意見や指導をいただく機会も計画しています。